

# 意見書 (医師記入)

ちくば認定こども園 施設長 殿

入園児名 \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_ くん/さん)

生年月日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日生

(病名) (該当疾患に☑をお願いします)

<input type="checkbox"/>	麻疹 (はしか) ※
<input type="checkbox"/>	風疹
<input type="checkbox"/>	水痘 (水ぼうそう)
<input type="checkbox"/>	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)
<input type="checkbox"/>	結核
<input type="checkbox"/>	<del>咽頭結膜熱 (プール熱) ※</del>
<input type="checkbox"/>	流行性角結膜炎
<input type="checkbox"/>	百日咳
<input type="checkbox"/>	腸管出血大腸菌感染症 (O157、O26、O111 等)
<input type="checkbox"/>	急性出血性結膜炎
<input type="checkbox"/>	侵襲性髄膜炎菌感染症 (髄膜炎菌性髄膜炎)

症状も回復し、集団生活に支障がない状態になりました。

年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日から登園可能と判断します。

年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

医療機関名 \_\_\_\_\_

医師名 \_\_\_\_\_

※必ずしも治癒の確認は必要ありません。意見書は症状の改善が認められた段階で記入することが可能です。

※かかりつけ医の皆さまへ

こども園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発症や流行をできるだけ防ぐことで、一人一人の子どもが一日快適に生活できるよう、上記の感染症について意見書の記入をお願いします。

※保護者の皆さまへ

上記の感染症について、子どもの病状が回復し、かかりつけ医により集団生活に支障がないと判断され、登園を再開する際には、この「意見書」をこども園に提出してください。

# 《子どもに起きやすい伝染病》

2018年保育所における感染症対策ガイドラインより

病名	感染しやすい期間（※）	主要症状	登園のめやす
麻疹 （はしか）	発熱出現1～2日前から発しん出現後の4日間	発熱、発疹、口の中に白いブツブツ、せき、鼻水、くしゃみ、目やに、風邪に似た症状	解熱後3日、せき、発疹が軽快するまで
風疹 （三日はしか）	発しん出現前7日から発しん出現後7日間	発熱、発疹、頭部のリンパ腺腫脹	発疹が消えるまで
水痘 （水ぼうそう）	発しんが出現する1～2日前からすべての発しんが痂皮化するまで	多くは発熱とともに粟粒大の水痘をもった発疹ができる。	すべての発疹がかさぶたになるまで
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	ウイルスは耳下腺腫脹前7日から腫脹後9日まで唾液腺から検出耳下腺の腫脹前3日から4日間は感染力が強い	発熱、耳たぶの下と前後のはれ、頭痛、食欲不振	耳下腺のはれが消えるまで
結核	—	慢性的な発熱（微熱）、咳、疲れやすさ、食欲不振、顔色の悪さ	医師により感染のそれがないと認められていること
咽頭結膜炎 （プール熱）	咽頭から2週間、糞便から数週間排泄される。（急性期の最初の数日が最も感染性あり）	発熱、手のひら、足の裏、口の中に小さな水痘ができる。	発熱、咽頭及び結膜の発赤消失後2日まで
流行性角結膜炎	充血、目やに等の症状が出現した数日間	目の結膜が赤くなり、ぶつぶつが見られ、まぶたもはれ涙が出る。かゆい。	結膜炎の症状が消失していること
百日咳	感染力は感染初期（咳が出現してから2週間以内）が最も強い。抗菌薬を投与しないと約3週間排菌が続く。抗菌治療開始後7日で感染力はなくなる。	日増しにひどくなる咳、ねばっこい痰。熱はなく、のども赤くない。	特有の咳が消失していること又は適正な抗菌性物質製剤による5日間の治療が終了していること
腸管出血大腸菌 感染症 （O157、O26、O111等）	—	水様下痢便や腹痛、血便がみられる。尿量が減ることで出血しやすくなり、意識障害を来す溶血性尿毒症症候群を合併し、重篤化する場合がある	医師により感染のおそれがないと認められていること。（無症状病原体保有者の場合、トイレでの排泄習慣が確立している5才以上の小児については出席停止の必要はなく、また、5歳児未満の子どもについては、2回以上連続で便から菌が検出されなければ登園可能である。）
急性出血結膜炎	—	充血、流涙	医師により感染のそれがないと認められていること
侵襲性髄膜炎菌 感染症 （髄膜炎菌性髄膜炎）	—	発熱、頭痛、嘔吐であり、急速に重症化する場合がある。	医師により感染の恐れがないと認められていること

※感染しやすい期間を明確に提示できない感染症については（—）としている